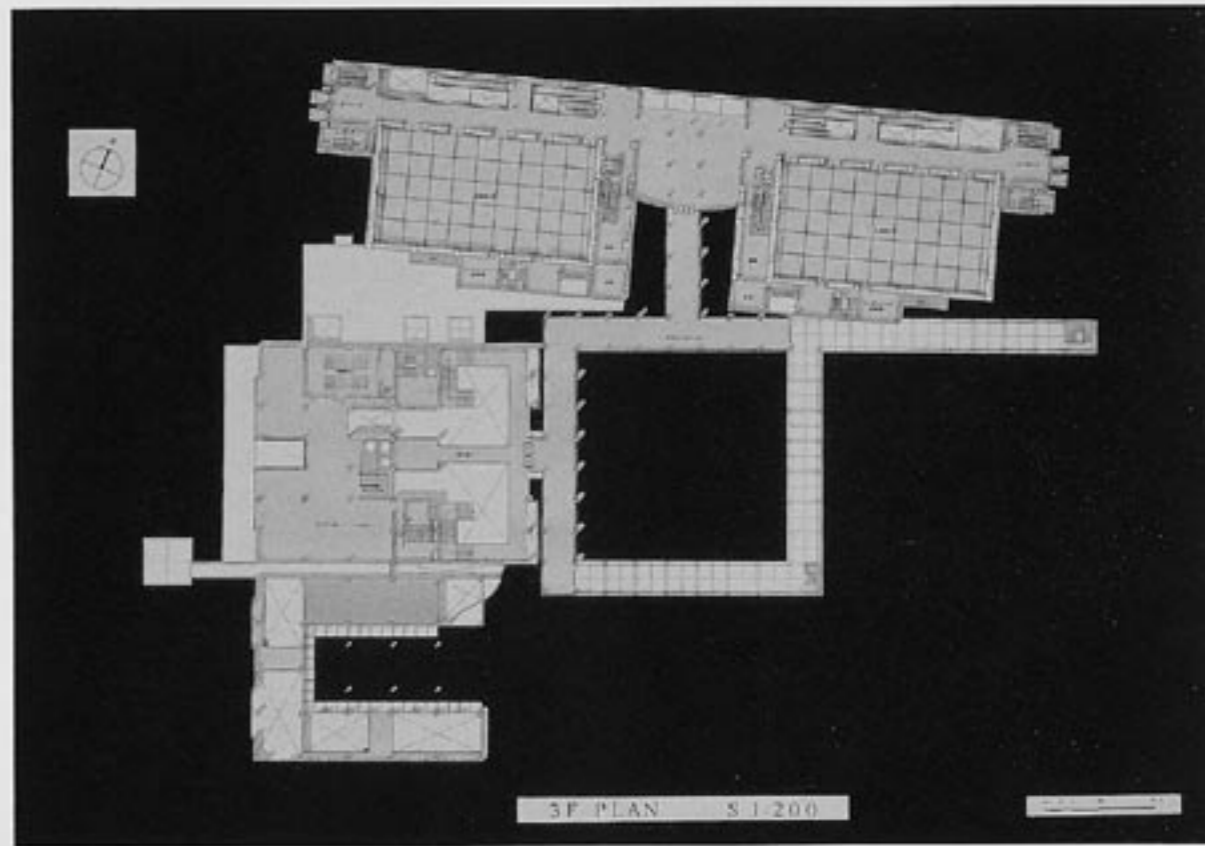
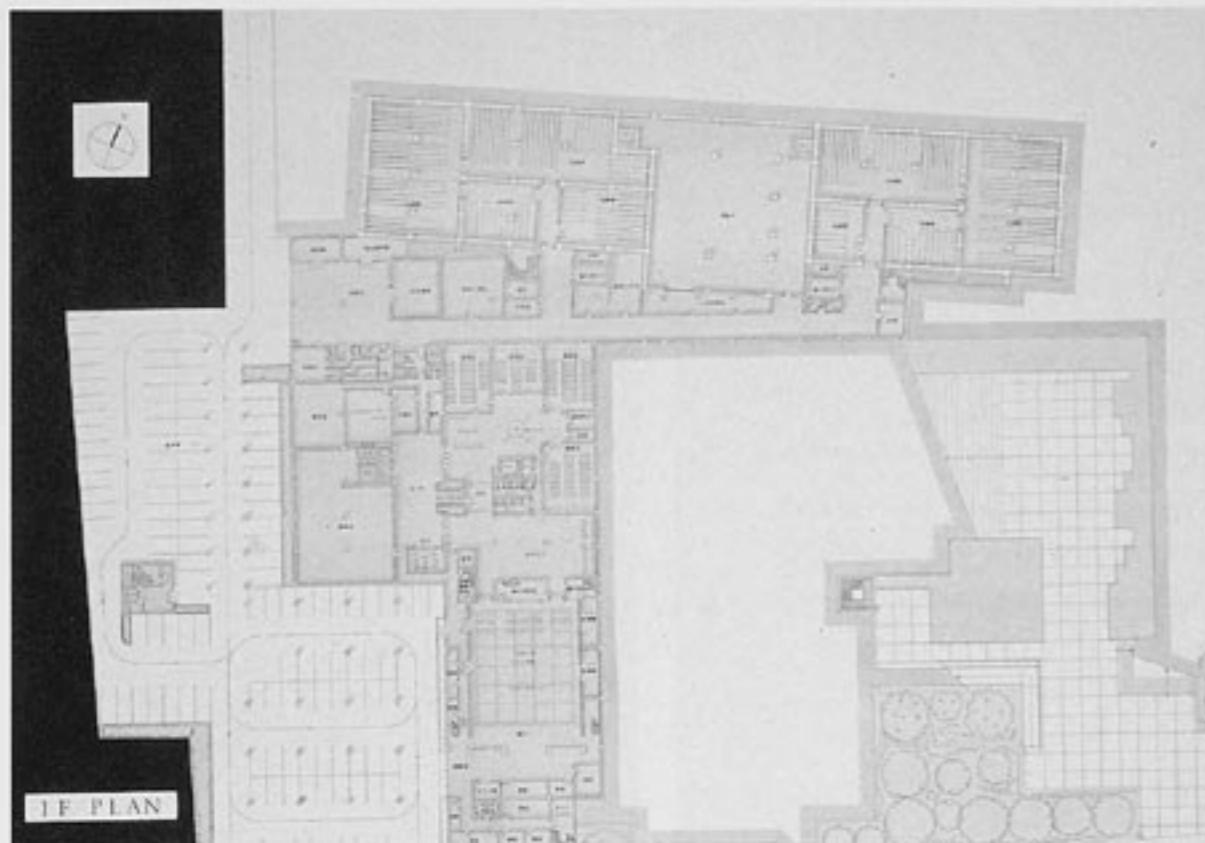


展示施設の計画と設計

—大阪市中之島近代美術館—

池田 達也



■設計主旨

近年、現代社会における生活圏の変化は、精神的、文化的価値観の高まりを呈し、芸術文化に対する期待と関心を強めている。このような社会現象を踏まえ、人々が直接に芸術文化を創造し、体験できる施設整備の充実が要望されている。一方、大阪市では市民生活の延長線上に文化活動の拠点を置き、芸術創造への活力を高める場を確立するために既設の市立美術館に欠けている機能を総合的に補完する新美術館を構想している。

また、都心型美術館として、市民を広範な利用・参加へと導き、市民交流の活性化を促すためには、昼夜を問わず利用が可能であり、交通の利便性や知名度の高い地域に存在することが重要であると考えられる。その点において、大阪市中之島は水の都のシンボルとして精神的社会的中心を担い、大阪における総合的に重要な地域として位置づけられている。その中之島では、西部地区の再開発が推進されており、その地域に含まれている大阪大学医学部が平成2年後期大阪府吹田市に移転が確定している。

そこで、大阪大学医学部跡地を本計画地として、上記の考え方を基に大阪市中之島近代美術館の計画を提案する。これにより中之島の東西軸として六つのゾーンに分割された国際化の拠点及び情報の発信地となりえる文化ゾーンの中心的役割を果たし、南北軸として科学技術館—美術館—遊歩道—遊川—現代芸術文化センターという自然と芸術文化の一体的な環境を都心部に再生し、調和のとれた空間を形成するものである。

